

【ニュースレター】

女性たちが力を入れる“まつ毛メイク”の「今」と「昔」を徹底比較！

12月19日を「まつ育の日」と制定！

“まつ毛メイク”の黒歴史を
年代別で徹底調査

まつ毛美容液「スカルプDボーテ ピュアフリーアイラッシュ」をはじめ、オリジナルのエイジングケア商品を展開するアンファー株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役:三山熊裕)は、まつ毛に関する情報をまとめたWEBサイト『#まつ育アカデミー』を公開中です。今回当社では、『#まつ育アカデミー』において、1年間、毎日の“まつ毛メイク”で様々な負担と戦ってきたまつ毛をしっかり労わる「まつ育の日」として制定した12月19日より、「10代のときのまつ毛メイク」に関する調査を公開いたします。

現役女子高生時代の世代別メイク術！こんな方法まで!? “まつ毛メイク”の歴史とは？

今回の調査では、まず、マスカラやつけまつ毛などの“まつ毛メイク”デビューをした年齢について調査。10～50代のすべての年代で、“まつ毛メイク”デビュー年齢は平均17.7歳＝高校2～3年生という結果となりました。現役女子高生(15歳～18歳)に絞ると、その平均年齢は14.7歳となり、若い世代ほど、“まつ毛メイク”のデビュー年齢が低くなっている傾向にあるようです。

さらに、各年代が現役女子高生だった10代の頃に取り入れていた“まつ毛メイク”術についての調査も実施。その結果、年代によって女子高生時代におこなっていた“まつ毛メイク”術に差があることが分かりました。

まず、現役女子高生は、「つけまつ毛」(58%)の使用率が全年代でトップ。約2人に1人が「つけまつ毛」を使用しているようです。続いて20代は「まつ毛パーマ」(17%)経験率が全年代でトップ、30代の回答として最も多かったのは「ウォータープルーフマスカラ」(71%)の使用となりました。40代で半数以上と最も多くの人が入力していたのは、「ビューラーを(ライター・ドライヤーなどで)あたためて使う」(50%)という小ワザ。さらなる小ワザとして、50代は「あたためたスプーンをビューラー代わりに使う」(10%)、「コームにつけたヘアスプレーでまつ毛のカールを固定する」(10%)という“まつ毛メイク”術が全年代でトップに。50代が現役女子高生時代に取り入れていたこの小ワザですが、現在の10代で実践した経験があるのは双方1割未満で、時代の変遷を感じられる結果となりました。

化粧の歴史とともにあり！年代別・現役女子高生時代の“まつ毛メイク”

1970年代

太目の眉、太めのアイライン。目を強調するのがトレンド。



50代 あたためたスプーンをビューラー代わりに

1980年代

眉は自然に。色味を抑えて。ナチュラルメイクが大人気に。



40代 ドライヤーやライターでビューラーをあたためる

1990年代

“ジュリアナメイク”が生まれた華やかメイクのバブル時代。



30代 ウォータープルーフマスカラ

2000年代

細眉、コギャル、ヤマンバ…。次々に新種メイクが登場。



20代 まつ毛パーマ

2010年代

ギャル系雑誌が大ヒット。つけま、エクステは当たり前。



10代 つけまつ毛

意外な情報&お役立ち知識が満載、まつ毛の総合情報サイト『#まつ育アカデミー』

アンファーでは、11月11日(火)の「美しいまつ毛の日」より、現代女性に対して正しいまつ毛ケアの情報を提供することを目的としたまつ毛情報サイト『#まつ育アカデミー』(<http://sd-beaute.angfa-store.jp/matsuge/>)をオープン。今回の詳しい調査結果もイラストとともに紹介。こうしたまつ毛に関する調査結果のほか、まつ毛の正しい知識を問う「まつ育統一テスト」など、まつ毛をテーマにしたコンテンツが盛りだくさん。今後も、女性のみならず「まつ育」を通じてイキイキとした美しいまつ毛を目指していただくべく、まつ毛に関する情報を発信してまいります。

■10代の頃の“まつ毛メイク”アイテム、2大巨頭は「マスカラ」&「ビューラー」

はじめに、10～50代の女性500名に、初めてまつ毛メイクをした年齢について聞いたところ、**平均は17.7歳と高校2～3年生にあたる年齢**に。最年少は10歳で、11歳や12歳と答えている人もおり、小学生にあたる年齢からまつ毛メイクをしている人もいるようです。

年代別に見ると、**現役10代は平均15.1歳、20代は15.4歳と全体平均以下に**、30代は17.8歳、40代から年齢が上がり20.2歳、**50代は22.0歳**という結果に。若い世代のまつ毛メイクに対する意識が高まり、**まつ毛メイクのデビュー年齢が下がってきている**ことが分かりました。

また、10代の頃に使っていた“まつ毛メイク”アイテムについても調査をしたところ、「マスカラ」(75%)、「ビューラー」(75%)がともに最多回答となりました。

10代の頃の“まつ毛メイク”アイテム

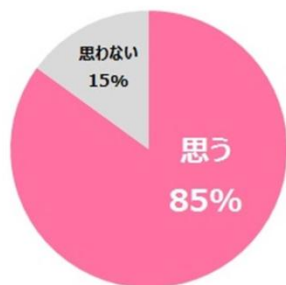
1位	マスカラ	…75%
	ビューラー	…75%
3位	つけまつ毛	…16%
4位	まつ毛エクステ	…3%
5位	その他	…1%

■10代からの“まつ毛メイク”でまつ毛に異変!? 負担を抱えてもケアへの意識は低め…

女子高生時代に取り入れていた“まつ毛メイク”術についてさらに調査をしたところ、**年代別に時代を反映した傾向**が見られました。現役女子高生を含む10代は「つけまつ毛」の使用が全年代トップだったのに対して、50代で全年代トップだったのは「あたためたスプーンをビューラー代わりに使う」、「コームにつけたヘアスプレーでまつ毛のカールを固定する」といった小ワザ。各年代、**新たな“まつ毛メイク”アイテムの登場にあわせてアイテム選びが変わってきていると同時に、アイテムの使い方も工夫している様子**がうかがえます。

一方で、こうした10代からの“まつ毛メイク”が与える影響も様々に考えられます。「10代からの“まつ毛メイク”は地まつ毛の負担になると思いますか?」と聞いたところ、**85%と約9割が「思う」と回答**。「10代からマスカラ、ビューラーは欠かせず、加えてここ数年で様々なまつ毛メイクを試したが、ダメージが大きくてすべて中止。10代からすべてのまつ毛メイクを継続していたら今頃、見る影もなかったと思う。(53歳)」といった実体験を伴ったコメントや、「若い頃から色々なまつ毛メイクで負担をかけていた友人は、**今まつ毛をすっぴんにできないらしい**。(42歳)」と、周囲の人のまつ毛の状態に触れたコメントが多数集まりました。まつ毛に対しての悩みを周囲の人に伝えるほど、まつ毛メイク歴の長い女性たちは、現在のまつ毛について多くの悩みを抱えていることがうかがえます。

Q:10代からの“まつ毛メイク”は地まつ毛の負担になると思いますか?



このように10代のうちから長年のまつ毛メイクで負担をかけてしまっている人が多いにもかかわらず、実際に10代の頃にまつ毛ケアをしていた人はたった20%。現在のケア状況についても、30%と**3割の女性しかまつ毛ケアをしていない**ようです。「若いときは化粧をすることに必死でケアをしなかったため、今は抜けやすいしハリもない。(27歳)」といった後悔の声も寄せられており、**若い頃から“まつ毛メイク”に注力する女性は多い一方で、“まつ毛メイク”がもたらす負担に関して十分にケアできている女性は少ない**と言えます。まつ毛ケアへの関心が低い中で、今になり、負担を蓄積した地まつ毛の悩みを抱える人が多いようです。

1970年代 文明の知恵がなせるワザ!



50代 あたためたスプーンをビューラー代わりに

メイクのトレンド
太めの眉に太めのアイライン。メイクはアイメイクが中心で、目を強調するのがこの時代のトレンド。

1980年代 必殺! アイメイク三種の神器?



40代 ドライヤーやライターでビューラーをあたためる

メイクのトレンド
眉は自然のまま、色は使わないなど、ナチュラルメイクが一番キレイとされた時代。

1990年代 さあ、水よかかってきなさい!



30代 ウォータープルーフマスカラ

メイクのトレンド
パプルの好景気でメイクも華やか! “ジュリアナメイク”という言葉も生まれた。同時期にまつ毛パーマが登場。

2000年代 パーマならすっぴんも安心!



20代 まつ毛パーマ

メイクのトレンド
細眉メイクからコギャル、ヤマンバと次々にメイクのトレンドが作られた時代。メイクの中心はアイメイクに。

2010年代 100均でつけま買い放題!



10代 つけまつ毛

メイクのトレンド
ギャル系雑誌が大ヒット。身近でアイテムが購入できるようになり、つけま、エクステが当たり前の時代に。

“つけま”の起源は大正時代!? 専門家に聞いた、日本女性の“まつ毛メイク” 今昔物語

調査結果からは、年代ごとの“まつ毛メイク”の特長と、10代からの“まつ毛メイク”による影響が明らかとなりました。そこで今回は、“まつ毛メイク”の歴史と変遷、および、“まつ毛メイク”が与える影響などについて、化粧心理学や化粧文化論を専門とする、国際日本文化研究センターの平松 隆円先生にお話をうかがいました。

■「目元パッチリ」の高支持率は100年も前から!? 大正時代に見る、日本女性のアイメイク術

化粧は有史以来おこなわれてきたもので、なぜ化粧をするのかについては様々な理由がありますが、美しくなりたいという気持ちは人間の歴史とともにあると言っていいでしょう。その中で、化粧品や化粧方法も日々進化を遂げてきました。最近では若い女性を中心として、目元のメイク(アイメイク)に力を入れている人が多いですね。アイメイクというといふ最近のものというイメージが持たれがちですが、実はその歴史は古い。例えば今やアイメイクアイテムとして定番の“つけまつ毛”。一説によると、すでに大正時代には、東京・浅草の芸者が自分の髪を利用して“つけまつ毛”代わりのものを作っていたとされています。今の感覚では、“まつげエクステンション”に近いかもしれません。また、同じく大正時代には、「眉墨を使ってまつ毛を描き足すとパッチリとした目元になる」というメイク方法が、美容本『化粧美学』(三須裕 著/大正13年発行)で紹介されています。こちらは言わばマスカラ代わり。今から100年以上から、まつげが長く濃いのは美人と考えられていたわけです。これらはどれも、目元を強調して、結果的に大きく見せる化粧方法。日本美人＝目が細いというイメージがありますが、実際は昔も今と変わらず、アイメイクや“まつ毛メイク”を重視し目元をパッチリとさせたかったのです。



■時代に応じて変化する“まつ毛メイク”トレンド…いつの時代もまつ毛負担はつきもの…

現代女性たちが10代のときの“まつ毛メイク”も、歴史の中で変遷を遂げています。現在に近い形の“まつ毛メイク”が大きく注目されたきっかけは、1967年のイギリスのモデル“ツイッギー”スタイルの流行。ミニスカートの火付け役という印象が強いですが、“まつ毛メイク”でも重要な役割を果たしています。濃い眉にアイラインをしっかりと引いて、つけまつ毛をたっぷりとし、さらに下まつげを描き足したツイッギーのアイメイクは、当時の若い女性たち(＝現50代女性)に衝撃を与えました。化粧の歴史全体を考えても、1960年代後半～1970年代前半の化粧のキーワードは“つけまつ毛”だと言えるでしょう。

その次の世代である現40代の女性たちは、バブルの好景気の時代に青春を過ごしました。景気の影響で、華やかな化粧が流行。アイメイクも“キャットアイ”と呼ばれる目ヂカラを強調するスタイルがトレンドに。1980年代にはまつげパーマも登場します。その後、時代は変わって2000年代からはギャル系雑誌が大ヒット。落ちにくいウォータープルーフマスカラや、つけまつ毛を使用した、目ヂカラをより強調したアイメイクが一世を風靡します。まつげエクステンションもこの頃登場。こうした変遷を経て、現10代～20代にとっては、化粧の中心はアイメイク、アイメイクは“まつ毛メイク”を意味するほどになっているとも言えます。

手法やトレンドは時代とともに変化していますが、長い時代にわたって女性たちは、“まつ毛メイク”をはじめとしたアイメイクに力を入れてきました。しかし化粧である以上、どの時代の“まつ毛メイク”も、まつ毛に負担をかけてしまうものが多い。それに対する意識が浸透してきた影響か、“まつ毛メイク”アイテムとともに、まつ毛ケアのアイテムにも進化が見られます。正しくまつ毛のことを知り、きちんとケアをするという意識が重要ではないかと感じます。ケアを始めるのは今からでも遅くはないので、“まつ毛メイク”へ力を入れるだけでなく、日々のまつ毛ケアも心がけてみてはいかがでしょうか。

▼ 平松 隆円(ひらまつ・りゅうえん) プロフィール

1980年滋賀県生まれ。2008年、世界でも類をみない化粧研究で博士(教育学)の学位を取得。京都大学研究員、国際日本文化研究センター講師、チュロンコン大学講師などを歴任。専門は、化粧心理学や化粧文化論など。現在は拠点をバンコクに移し、日本と往復しながら、大学の講義のみならず、テレビ、雑誌、講演会など幅広く活動中。主著に『化粧にみる日本文化』(2009年・水曜社)、『黒髪と美女の日本史』(2012年・水曜社)、『邪推するよそおい』(2014年・織研新聞社)など。

▼『#まつ育アカデミー』WEBサイト

<http://sd-beaute.angfa-store.jp/matsuge/>

アンファー株式会社について

アンファー株式会社は、1987年の会社設立以来「ニッポンを若くする」をコンセプトに、皆さまの「いつまでも美しく、健やかに生きる」というエイジングケア・ライフスタイルの実現を目指すトータルエイジングケア・カンパニーです。

多くの医師や臨床機関・研究機関との密接なリレーションを構築しながら、「スカルプD」をはじめ、様々なエイジングケア商品の企画・研究開発および販売をおこなっております。

■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください■

トレンドーズ株式会社 担当: 福田(ふくだ)

TEL: 03-5774-8871 / FAX: 03-5774-8872 / mail: press@trenders.co.jp

女性に正しいまつ毛ケアの知識を…まつ毛の情報サイト『#まつ育アカデミー』

「顔の印象」を大きく左右する重要な部位にもかかわらず、大きな負担を強いられている、現代女性の「まつ毛」。まつ毛メイクのしすぎや、誤ったケアなどで、まつ毛が抜けたり、傷んだりしている人も多いと考えられます。

まつ毛美容液市場シェアNo1*の「スカルプD ポーテ ピュアフリーアイラッシュ」を展開するアンファーでは、2014年11月11日(火)の「美しいまつ毛の日」に、現代女性に対して正しいまつ毛ケアの情報を提供することを目的とした**まつ毛の情報サイト『#まつ育アカデミー』**をオープンいたしました。

サイト内には、今回のレポートで紹介した調査結果のほか、まつ毛の正しい知識を問う「**まつ育統一テスト**」など、まつ毛をテーマにしたコンテンツが盛りだくさん。また今後も、女性のみならず「まつ育」を通じてイキイキとした美しいまつ毛を目指していただくべく、まつ毛に関するさまざまな情報も配信してまいります。

*トリートメント・マスカラ市場(ブランドシェア)2013年実績(富士経済調べ)

▼『#まつ育アカデミー』WEBサイト

<http://sd-beaute.angfa-store.jp/matsuge/>



人気コンテンツを一部ご紹介

「まつ毛アイテム」による日々の負担を物理学者が徹底検証！

身近な疑問を科学で解明するなど、ユニークな実験を多数おこなっている物理学者、平林純先生の協力のもと、物理学的視点からまつ毛メイクの負担を数値化しました。日々のメイクでまつ毛にたくさんの負担がかかることが分かる人気コンテンツです！



①「まつ毛エクステ」をつける負担1年分は、まつ毛で65kg級の「柔道選手」を持ち上げる負担と同等！



「まつ毛エクステ」をつけた状態で、まぶたを持ち上げる負担(仕事量)1年分
=【持ち上げるときの力(N)】
×【持ち上げる時にまぶたを伸ばす距離(m)】
×【365(日)】

⇒約61kgのものを1cm持ち上げる負担(仕事量)に相当！

「まつ毛エクステ」をつけた状態で、まぶたを持ち上げる負担(仕事量)は、1年分で、約61kgのものを1cm持ち上げるのと同様になります。つまり、女性柔道選手(65kg級)1人を持ち上げるのと同じくらいの負担(仕事量)が発生します。

※片目あたりの「まつ毛エクステ」の本数を60本、重さを0.013gとして計算
※1日に6時間寝て、5秒に1回まばたきをし、1回で5mmの距離のまばたきをするとして計算

②「マスカラ」を落とす負担は、大型犬の代表格「セントバーナード」2匹との散歩に匹敵！



「マスカラ」を落とす時に、まぶたを引っ張る負担(仕事量)1年分
=【まぶたを引っ張る力(N)】
×【引っ張る長さ(m)】
×【こする回数(回)】
×【365(日)】

⇒約168kgのものを1cm引っ張る負担(仕事量)に相当

しっかりメイクをオフする事が必要なマスカラですが、大きな負担(仕事量)がかかることに。その負担(仕事量)を1年分に換算すると、大型犬のセントバーナード2匹を引っ張るのと同じくらいの負担(仕事量)になります。

※「マスカラ」を除去する時の引っ張る力を45cN(=0.45N)として計算
※除去するときにまぶたを引っ張る長さを10mmとして計算
※1回の除去につき、5回こするとして計算